

おしえて！あなたのワザとアイディア 特別編

子供と楽しくワザあり菜園！



※この畑の土には、乾くと焼き物みたいに固くなる粘土が多く含まれているんだよ。土の表面は乾きやすく、下の方はいつまでも湿っていて空気の通りが悪くなりやすいんだ。キュウリやカボチャは浅く根をはるので、表面の土が乾いて固まらないようにマルチをはるといいよ。でも、自然農法を続けると土がだんだん良くなるので、もう少し土が育ったらマルチがいらないからね。

もうすぐ春休みも終わり！今日はお父さんといっしょに畑にやってきました。小さな虫がひなたぼっこをしたり、花が笑顔でむかえてくれます。一年に数回しか手伝う機会はないけれど、楽しくお手伝い？するみたいです。今回は、そんな親子の会話です。

◆ まいぴー(ま)「ねえ、お父さん！この畑は草だらけだね。」①

あーちゃん(あ)「お父さん。ちゃんとお仕事しているの？」

パパ(P)「よく気がついたね。他の畑はきれいに草がなくなっているからね。でも、これは草生栽培(そうせいさいばい)といって、お父さんが草のタネをまいたんだよ。自然がやっていることを真似(まね)して、この草が土をよくしてくれるのさ。例えば、野菜が健康に育つように、かたい土を柔らかくしたり、粘土の多い土にちょうど良い湿り気を保ったり、土の中で暮(く)らす生きもの(てんきき)や微生物(びせいぶつ)、土を育てる土壌動物(どじょうどうぶつ)を助



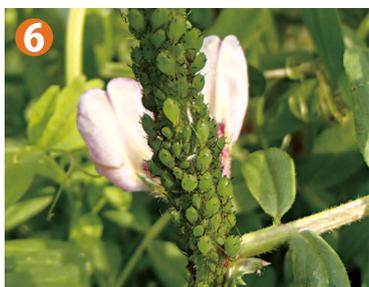
あーちゃん(左)
まいぴー(右)
(愛知県武豊町)
自然農法歴 数日

コツ・ワザ・アイディア 大募集！

このコーナーでは、菜園やプランター栽培をされている方々から、おいしい野菜を育てるコツ、たくさん穫るコツ、病虫獣害対策、簡単作業など、家庭菜園から生まれる様々なワザやアイディアを募集しています。技術普及課(0569-89-7643)までご一報ください。



5



6



4



2



3



けて元気にしてくれるんだよ。草の上は歩いてもいいよ。」

あ「ほんとだね。草の上は柔らかいね。あつ！これクローバーだ。こっちの草はなんていうの？」**2**

P「これはムギの仲間だよ。このタネの形を見てごらん、飛んでいるツバメのように見えるだろ！それで

ツバメのムギ『燕麦』と書いてエンバクと読むんだよ。」

ま「あつ、テントウムシがいる！ひなたぼっこしているのかな？」**3**

あ「知ってるよ。テントウムシはアブラムシを食べるんだよね。」

P「そうだよ、幼虫は1日に50匹くらい食べるくらいしん坊なんだ。アブラムシが草を食べる草食系で、

テントウムシは虫を食べる肉食系だから、メスのテントウムシは今流行の肉食系女子だよ(にやける)」「

ま「(わかんない) ここには黒い虫がいるよ。」**4**

P「その黒くてオレンジ色の模様がついた怪獣みたいなのが、肉食系怪獣だよ。これはテントウムシの幼虫。」

こっちはタマゴ。それでこれがサナギだよ。よくみてごらん。」**5**

ま「お父さん、これ見て！よくみたら虫がいっぱい気持ちわる〜。」**6**

P「これが、あーちゃんがいったアブラムシだよ。花とか葉っぱの

先たんは虫にとつて甘いんだよね。集まって甘い汁を吸っているんだ。

さっきのテントウムシがやってきたら、このアブラムシをたべちゃうよ。畑の草の中には面白い生き

ものがいっぱい集まるからね。テントウムシも含めていろんな生き

ものは、草の影で湿り気があって、葉っぱの他にも花の蜜や花粉がこ

ちそうになるんだよ。」

ま「ふーん、そうなんだ。」

P「自然農法の畑は、一日いても飽きないんだけど、陽が暮れてしま

うといけないから仕事をはじめよ。今日はカボチャを植えるところ(畝)にマルチをはって、風で

飛ばないようにアミで固定するよ。このもり上がった土の見えるところ

が野菜のベッドになるんだよ。」

あ「私たちにできるかなー？ ところで、マルチって何？」

P「このながーいラップみたいなものだよ。今回はこれで土の表面をお

おって、土の乾きすぎや水分が多くなりすぎないように、土をあた

ためて、草が生えるのを防ぐんだよ(※)。」

P 「じゃー、まずマルチをはる準備から手伝ってもらおうね。」

ま・あ 「はい。」

P 「土を平らにしてマルチとの間にすき間ができないようにする。でも、土のかたまりでゴツゴツしているよね。このままマルチをはると硬くどがった土のかたまりが、マルチを破ってしまうでしょ？。じゃあ、どうすればいいでしょうか？」

あ 「じゃあ、たたきつぶします！」

ま 「ぶっこわす!!」

P 「……(涙)。お父さんは、おまえ達に、お姫様のように育ててもらいたいんだよ(泣)。」

あ 「そうなの？ 私は小学校の先生になりまーす！」

ま 「私はピアニスト！」

P 「はい、はい！ じゃあまずは、最新のメカを使ってもらおうかな。二人でその板を持ち上げて、畝の上に置いて、板で土のかたまりを押しえて平らにするんだ。二人で板の上を歩いてね。仲良く二人並んで板の上が平らになるようにしてね。」^⑦

あ 「このメカって、ただのベニヤ板だよね。」

ま 「楽しいー。」

あ 「でも、私たち重いから、こんなに踏んだら土がかたくなってしまうんじゃないの？」

P 「大丈夫だよ(※)。見てごらん、キレイに平らになったでしょ。平らになったところを手で押してごらん。まだまだ柔らかいから。」

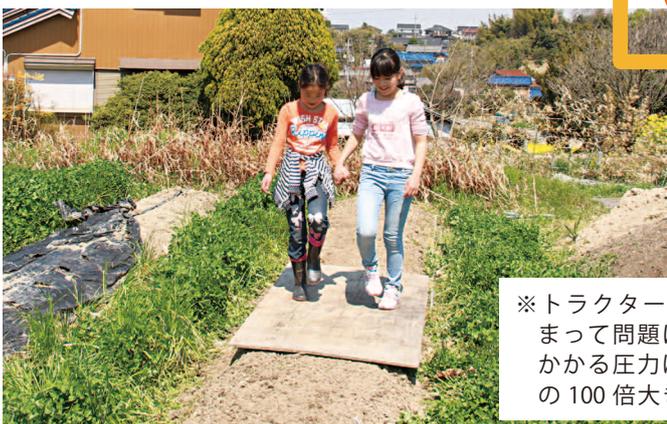
あ 「本当だ。弾力がある。土ってすごいね。」

ま 「たくましいね。」

P 「次はマルチをはるよ。どうやってはるかな？ ヒントはこのヒモを使いまーす。」

あ 「それじゃ、このマルチの芯しんにヒモを通して、準備完了。それじゃあ行きますよ。あれれ、なんか引っぱりにくいな。どうしてだろう？」

P 「すごいねー。正解です。でもちょっとおしいね。ヒモが正三角形だと引っぱりにくいだよ。もう少しヒモを長くしてマルチを転がすようにするんだよ。右のヒモ、左のヒモで二辺の長い二等辺三角形に調整すれば真ん中に張れるよ。そうやって引っぱって行ってね。それと土の上を転がせば少しくらいの風がふいてもマルチが飛ばされる心配ないよ。はい、きれいにマルチが畝の上に張れました。じゃ



※トラクターのような大型機械でも人でも、踏みつけると土がかたく締まって問題になるんだ。でも、ベニヤ板のように面積が大きいほど土にかかる圧力は小さくなるから、かたくならないんだ。たとえば、板が靴の100倍大きければ、土にかかる圧力は100分の1になるんだよ。



あ マルチの裾^{すそ}を土でうめよう。」**8**
ま 「あつ、四つ葉のクローバー見つけた？」

P 「……(まいびーはもうあきちゃったか。)今日は特別に古くなったノリ養殖^{ようじよく}に使うノリアミをマルチ押さえに使うよ。これで、カボチャのツルをアミにからませることが出来るんだよ。アミの片方をこの丸ペグで止め、もう片方でアミをはりながらペグで固定するよ。」**9**
ま・あ 「よっし完成だ。やったね。お父さん。」

ま 「四つ葉のクローバーがこんなにたくさんあったよ！」
あ 「お父さん、なにか、この畑、幸せがたくさんあるみたいだね。だって四つ葉のクローバーがこんなにあるもの。野菜も虫も土も、きつとみんな幸せなんだね！」
ま・あ 「お父さん、お礼の冠^{かんむり}です。」
あ 「今日はいろいろ教えてくれてありがとう。」

P 「おまえたち、お父さんうれしいよ(涙)。でもそのうち、冠かぶったどこかの王子様が、おまえたちをさらって行っちゃうんだろな。」
あ 「そんなことないよ。毎日おいしい野菜が食べられて、花や虫にかこま

れる方がいいもん。王子様よりもお父さんのような野菜を育てる人のお嫁さんになりたいです！」

ま 「なりたいでーす。」
P 「……おまえたち!!! (涙)」
◆
ノリアミを張り終えたあーちゃんとまいびーがシロツメクサ・ホトケノザ、タンポポで上手に冠を作りました。板にのるのも、パパのをせるのも、上手にワザを決めたようですね。めでたし！めでたし！

